



導入製品： EVE FA
Standalone Edition

持ち出しパソコンのセキュリティレベルを見直し経営課題を解決

～導入製品は、自社ソリューションのラインナップ強化に～

株式会社ピーエスシーは、企業のDXをICTサービスで支援する会社です。DDSの販売パートナーでもある同社は、自社のセキュリティソリューションのラインナップとしてEVEシリーズを販売。テレワークにおける万全な社内セキュリティ対策の一つとして持ち出し用PCすべての端末にEVE FA Standalone Edition(以下、EVE FAスタンドアロン)を導入、本人認証の方法を統一するとともに、セキュリティの強化を図りました。今回の取材では認証システム EVE FAスタンドアロン導入の経緯、将来に向けた構想についてお話を伺いました。

■持ち出しパソコンの管理体制を強化

当社は使用するパソコンの標準モデルの他、複数メーカーのパソコンを採用しております。そのため指紋センサー搭載の有無や、OSログオン時のWindows Helloの利用判断を利用者が行うなど、パソコンの仕様やその運用に違いが生じていました。そこでこの運用の違いが、将来的に情報漏えいのリスクにつながるのではないかと考え、2019年11月に持ち出しパソコンの認証やデータの安全性などを考慮した管理体制を2019年内に構築致しました。

■データ無意味化ソリューションとの組み合わせで端末のセキュリティをアップ

管理体制を強化するためには、散在していたハードウェアとソフトウェア両面のセキュリティ対策を統一する必要がありました。そこでまず、認証ソリューションは、以前よりお付き合いがあり、尚且つ認証の重要性をご説明していただいたDDSの指紋認証に決めました。2019年内完了まで残すところあと1か月であったため、構築が必要となるクライアントサーバシステムではなく、導入が容易なEVE FAスタンドアロンとしました。またセキュリティ強化には生体認証だけでなく、ZenmuTech社のデータ無意味化ソリューション（ZENMU Virtual Desktop）を同時に導入、この組み合わせにより、万が一社外でパソコンを紛失してもデータ漏えいが起きない、DDSの指紋認証でパソコンには利用者本人しかログオンできない、という仕組みが構築できました。

■短期間での認証導入。その後の利用状況もスムーズに

EVE FAスタンドアロンのパソコンへのインストールは、情報システム部門主導で行いました。部門ごとに日時指定をし、利用者本人にパソコンを持参していただき、インストールと指紋登録を同時に行いました。対象パソコンすべてに導入する作業を年末までの1週間で完了させるという期限があったため、情報システム部門は、大変な作業であったと思います。結果的には、西日本の導入は年明け1月迄かかってしまいましたが、導入した結果、新型コロナウイルス感染防止策として行われた外出自粛要請までに、図らずしも当社のテレワーク環境が整うこととなりました。

当社ではEVE FAスタンドアロンで生体（指紋）認証とパスワード認証をおこない、Windowsログインをしています。業務アプリケーションの認証は、それぞれセキュリティを考慮した認証方法となっているため、統一はしておらずそのまま利用しています。

指紋認証デバイスは、一番使いやすく指をスライドさせるとき安定していると感じたUBF-Triにしましたが、認証が通りづらかった場合の対策として日替わりパスワードも運用しています。実際に使用している社員から使いづらいと言った声は出ておりませんので生体認証はスムーズに受け入れられていると考えています。

■実体験を生かした自社ソリューション「SECURITY6」

当社は、ICTサービスを提供する会社です。以前から、当社のソリューションラインナップに追加するセキュリティ製品を探しており、DDSの認証製品を扱いたかったことも、EVE FA スタンドアロンを選択したもう一つの理由です。今回の自社導入をとおして製品理解も深まりましたので、DDSの認定販売パートナーとなり、テレワークに必要なセキュリティ「SECURITY6」というソリューションのラインナップの1つとしてDDSの認証製品を販売致しました。「SECURITY6」はエンドポイントセキュリティのトータルソリューションで、お客様の状況に応じたご提案をしています。



新型コロナウイルス感染防止策としてテレワーク導入が進んでいますが、様々な脅威に対してのセキュリティ対策はまだ不十分で、生体認証やデータ保護などのニーズはこれからもっと出てくると考えています。

■将来的には集中管理も検討。自社ソリューション展開へのノウハウに

情報漏えいが起こりやすい端末のセキュリティレベルを統一し、第三者が不用意に入れない環境を導入した点において経営側は安心感を抱いたと思います。今後アプリケーションレベルでの制御の集中管理について検討する際に、現在使用していないシングルサインオンなどの機能の利用については改めて考え、また、当社の利用経験をお客様へのご提案に生かし、展開していくことでより多くのノウハウを蓄積し、セキュリティ対策の重要性を広めていきたいと考えます。

※記載の内容は 2020年 9月のもので、内容は予告無く変更する場合があります。※記載の社名、および製品名は、各社の商標または登録商標です。202009_D201830



株式会社ディー・ディー・エス
<https://www.dds.co.jp/ja/>

お問い合わせ



本 社：〒460-0002 名古屋市中区丸の内三丁目6番41号 DDSビル7F
TEL：052-955-6615（営業本部） FAX：052-955-6610
東京支社：〒108-0075 東京都港区港南二丁目16番1号 品川イーストワンタワー 14F
TEL：03-6712-3561（営業本部） FAX：03-6712-8762